平成３０年度　租税教育に関する研究発表要項

亘理町立荒浜小学校
教諭　　髙橋　洋彰

1 研究主題

税への興味・関心を高め，正しい知識と納税意識をもった子どもの育成

～児童自らが課題をもち，調べる活動を通して～

2 主題設定の理由

納税は，日本国民の三大義務の一つであり，社会が成り立つために必要不可欠なものである。税を納めることで，道路整備等の日常生活に関することに限らず，医療費や救急等の緊急時にも恩恵を受け，安心して生活することができている。また，義務教育が無償で提供される等，税金を使って，文化的な生活の礎ができているとも言える。

一方，税金に対する児童の知識は乏しく，無償で配付される教科書や，学校等の公共・共同の設備に税金が使われていることを，児童はよく理解できていない。テレビのニュース等を毎日見ている児童は多く，税金についての話題を耳にする機会はあると思われるものの，税金を身近なものと感じていないのが現状である。

今回，公職選挙法が改正となり，選挙権が１８歳に引き下げられたことで、６年生の児童が実際に社会の一員となり，投票権を行使できるようになるのは6年後である。今まで以上に，社会の仕組みについて知り，社会参加への関心を高める必要がある。これらのことを踏まえ，世の中がどれだけ税金に支えられているかに気付かせ，税金の意義や役割について学習させることは，社会の一員として生きていくために非常に大切であると考える。

そこで，税金について児童が自ら課題をもって調べ学習を行わせることで，税金に対する興味・関心を高めさせたい。さらに，税金の意義や役割等について正しい知識を身に付けさせることで，税金の大切さに気付かせ，納税意識をもたせることができるのではないかと考え，本主題を設定した。

3 研究目標

税金に対する興味・関心を高め，税金の意義や役割を理解し，将来において適切に納税をしようとする態度を育成する指導の在り方を探る。

4 研究の方法

(1) 税金に対する意識調査を行い，児童の実態を把握する。
(2) 租税教室を通し，税金についての基本的な知識を身に付けさせる。
(3) 「わたしたちのくらしと税金」（宮城県租税教育推進協議会，仙台国税局発行）を活用し，租税教室で学んだことを生かして，児童に課題を設定させる。
(4) 課題に対してより広く，深く調べさせるため，内容が似通った課題を設定した児童同士のグループを作らせる。グループごとにインターネット等を活用して調べ，プレゼンテーション形式でまとめさせる。
(5) 発表会を行い，調べた内容を共有し，知識を広げる。
(6) 分かったことから，自分の考えやこれからの思いについてまとめさせる。
(7) 事後調査を行い，変容を考察する。

5 研究の計画

年	時期	研究内容
平成２９年	１１月中旬	事前意識調査・分析
	１１月２９日（水）	租税教室（仙台南間税会　日下 重紀 氏）
	１２月	課題設定，調べ学習
平成３０年	１月～２月	（調べ学習），まとめ
	２月１６日（金）	発表
	２月	事後意識調査

6 指導計画

段　階	主な学習内容	時間
①事前意識調査	・調査紙を用い，児童の税に対する意識を把握する。	
②税金について知ろう	・租税教室で基本的な税の知識と，意義や役割等について知る。	1
	・「わたしたちのくらしと税金」等の資料を活用し，税に対する理解を深め，課題を設定する。	1
③税金について調べよう	・税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて，個人で調べる。	1
	・似通った課題を設定した児童同士でグループを作り，インターネット等を活用して課題について調べる。調べたことをプレゼンテーション形式にまとめる。	3
④調べたことを伝えよう	・発表会を行い，調べた内容を友達同士で共有する。	1
⑤事後意識調査	・児童の税に対する意識の変容をみる。	

7 研究の概要

(1) 児童の実態（事前意識調査）

（平成２９年１１月実施　対象：６年１組　男子１３名　女子６名　計１９名）

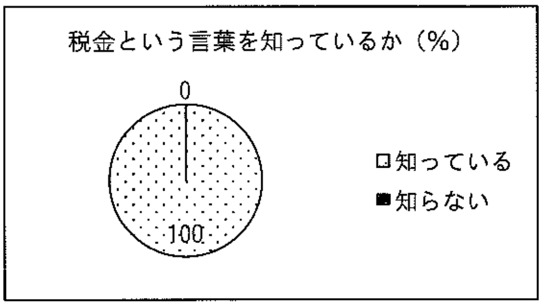


図１

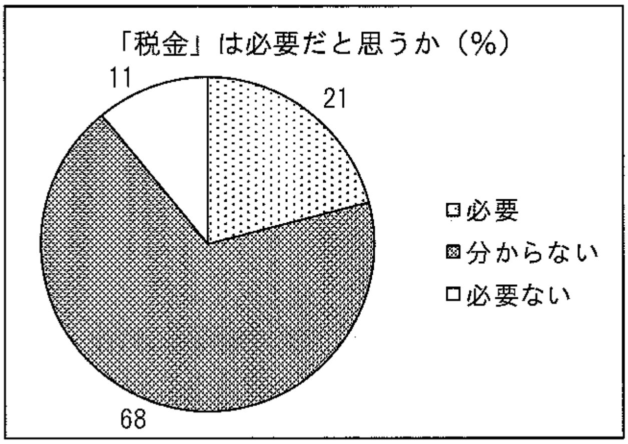


図２

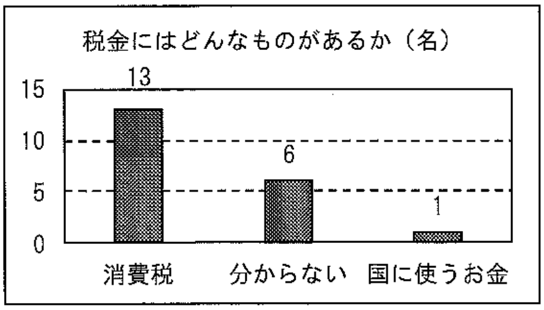


図３

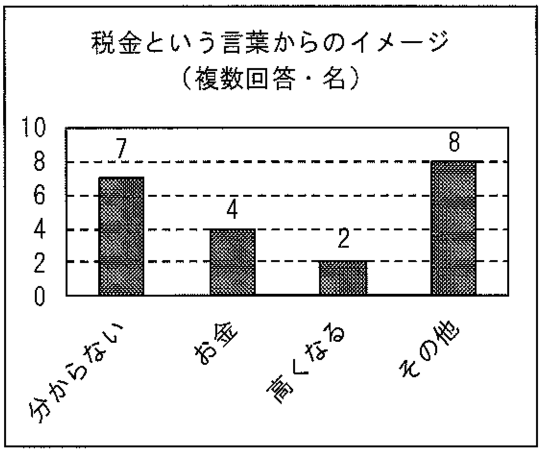


図４

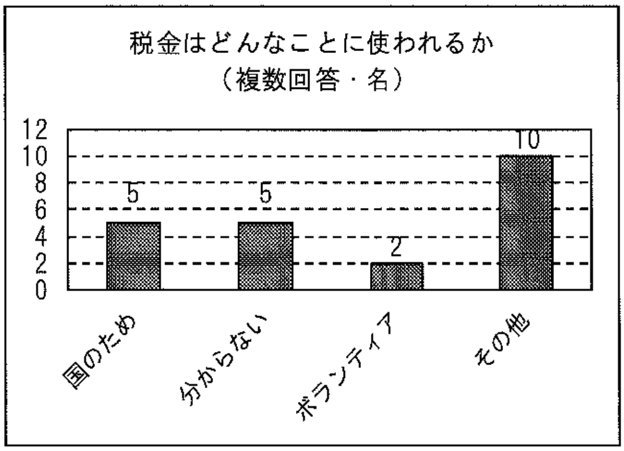


図５

【考察】

・税金という言葉は全員が知っているものの，税金の使われ方や必要性について，正しく理解している児童はほとんどいない。（図１，２，５）
・どの質問項目においても，「分からない」と回答する児童が多かった。特に，必要性に関しては，「必要」「不必要」と回答した児童も，「どちらかといえば」で回答しており，税金についての知識や理解が少ない児童が多いことが分かった。（図２）
・生活の中でよく耳にする「消費税」を，「知っている税金」として挙げる児童がいたものの，その他の税について知っている者はいなかった。「消費税」も全員が挙げたわけではなく，税金を身近なものとして捉えているとは言いがたい状態である。（図３）
・「税金＝みんなのためのもの」というイメージはなく，むしろ「（税率が）高くなる」や「（代金が）高くなる」といった，マイナス面のイメージが見られた。（図４）
・税金の使われ方に関しても，漠然とした回答や，正しくない回答が目立った。（図５）

以上のような児童の実態から，税金についての正しい知識を身に付けさせる必要があると考えた。

(2) 実践の概要

【第１時】租税教室（平成２９年１１月２９日）

仙台南法人会の日下 重紀 氏を講師として招き，税金の種類や必要性等，基本的な税の意義や役割等について学習した。講師が，児童にとって捉えやすい「消費税」を話題として取り上げたことで，児童も学習したことをよく理解し，税金を身近に感じるようになった。また，ＤＶＤアニメ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴したが，視聴前に「税金は必要ない」と挙手した児童も，視聴後は「必要」に挙手する等，税金の必要性を感じることができた。

また，最後に１億円分の札束のレプリカを持ち，その重さと大きさを体感する等，児童の関心を引き出しながら，学習が進められた。

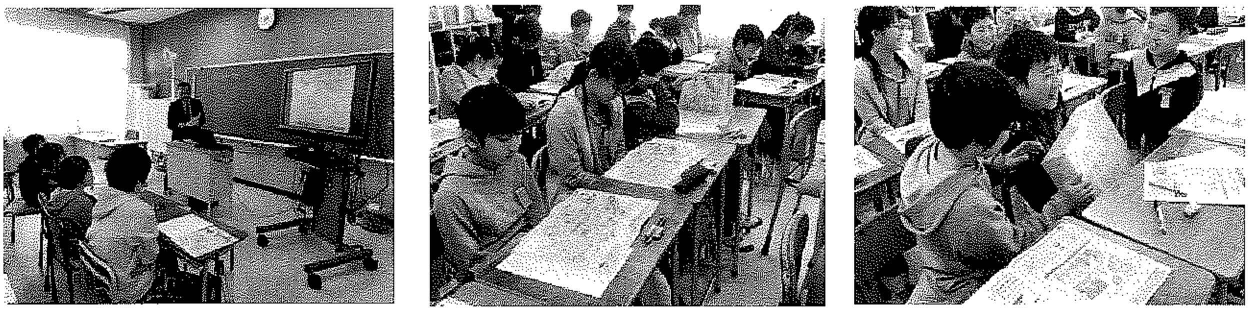


写真１　租税教室で，税金の内容について学ぶ児童

租税教室を終えた時点で，児童から出た調べたいことについては，以下のようなものである

・他にどんな税金があるのかを知りたい。
・消費税について調べたい。
・税金はいつからあったのか。
・外国の税はどんなものがあるか。

この時点では，児童全員が調べたいことをもつことができたわけではなかった。内容については「税金の種類」について調べたいという児童が多かった。

【第２時】税に対する理解を深め，課題を設定する

「わたしたちのくらしと税金」（宮城県租税教育推進協議会，仙台国税局発行）を活用し，租税教室で学んだ内容を確認しながら，さらに理解を深める授業を行った。

そして，今後は「自分が税について，さらに調べたいことを深め」，「調べた内容を，分かりやすく説明する発表会をする」という学習の流れを説明した。

児童から出た調べたいことについては，以下のようなものである。

・税金には，他にどんなものがあって，どのように集められているかを詳しく調べたい。
・分かりづらい税金の内容を説明したい。
・どうしてこんなに多くの種類の税金が必要なのか。
・外国の消費税が，どうしてこんなに高いのか知りたい。
・より多くの国の消費税率について調べたい。
・その時代によって，どんな税金があったのか等，歴史について知りたい。
・亘理町では税金がどれくらいあるのか，どう使っているのか。
・国の税金は誰が使い方を決めて，どのように使っているのか。

理解を深める授業を行ったことで，児童の調べたいことの範囲が広がったり，より明確になったりした。また，全員が自分が調べたいことを決めることができた。

【第３時】個人での調べ学習

個人で調べる時間を１時間設定し，まずは自分が税について興味をもったことを調べる時間をとった。調べたいことの数には個人によって違いがあり，調べる内容の難易度も様々であった。

そこで，以下のような手立てをとった。

① 国税庁のホームページから始めること（そこで解決する課題が多かったため）
② 友達同士で自由に情報交換，共有をしてよいこと（より広く，深く情報収集するため。また，関心の範囲を広げるため。）

自分の知りたいことが，友達の資料で分かったら，それを基にして，次の課題解決へとつなげるようにした。

多くの課題は，国税庁のホームページで解決することができた。そこで次は，発表に向けての準備として，要点をまとめたり，難しい言葉を分かりやすくするために辞典で調べたりしていた。

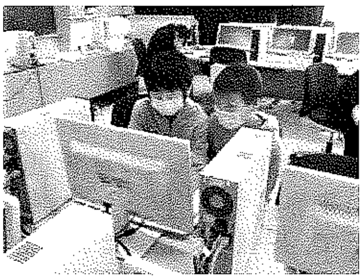


写真２　課題が似通っているため，情報共有をしている児童

写真３　資料を基に要点をまとめる児童

【第４・５・６時】グループでの調べ学習・発表準備

似通った課題を設定した者同士でグループを作った。その結果，以下のような５グループに分かれた。

・税って何？	・税の歴史	・消費税について
・税の種類	・税の未来	

・調べ学習

個人で調べた内容をグループ内で共有し，さらに出てきた課題や疑問点についてさらに調べる活動を行った。また，資料作成を見据え，より分かりやすい資料を検索したり，一つの税について深く調べたりしていた。

・プレゼンテーションの準備

発表ではプレゼンテーション形式を採用した。グループ内で分担し，原則一人１枚プレゼンテーションのシートを作成することで一人一人が活動できるようにした。壁新聞のように校内で集まって作成しなければいけない形式ではなく，個人で原稿や提示資料を作る形式をとることで，家庭での自主的な活動や放課後の活動等，児童の都合に合わせて作成できるようにした。

プレゼンテーション作成のために３時間の時数を確保したが，資料の作成は個人で進められていたので，授業中は「資料の見やすさ」や「原稿の分かりやすさ」について確認し，修正するグループが多かった。

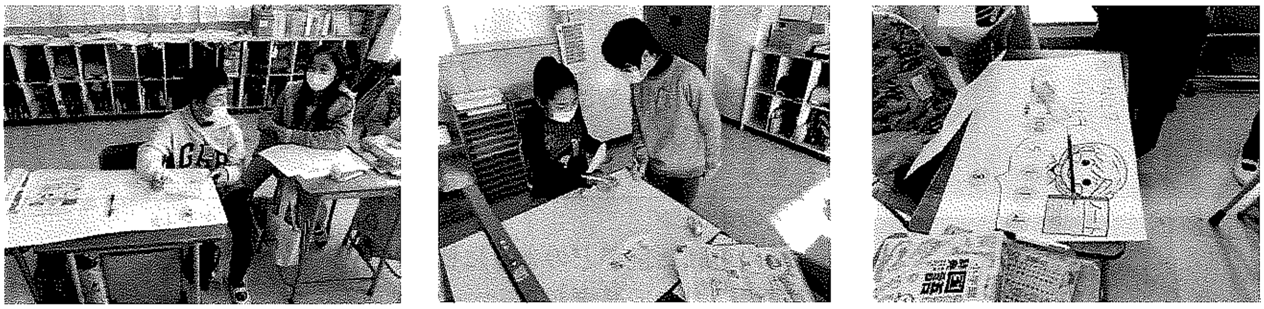
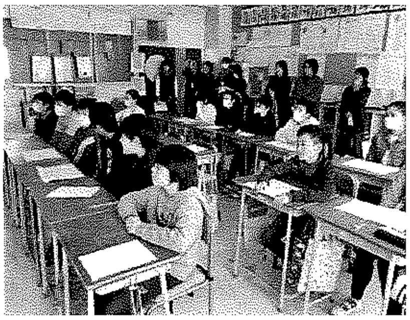


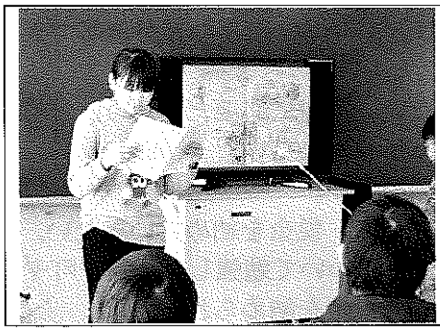
写真４　グループで相談しながら，プレゼンテーションの資料を作成する児童

【第７時】税についての発表会



２月１６日（金）の授業参観で発表を行った。これは，児童の調べ学習や発表への意欲向上のためであり，さらに家庭でも税に関する話題としてほしいという考えで，保護者の前で発表させることにした。

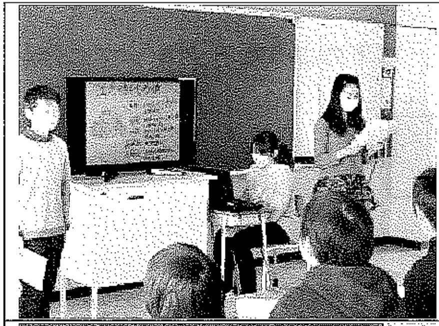
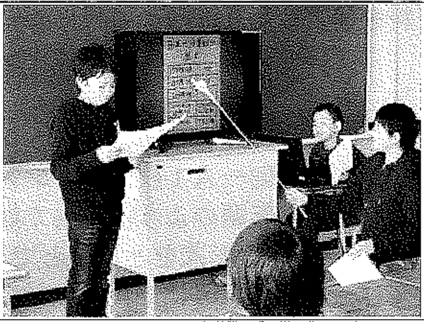
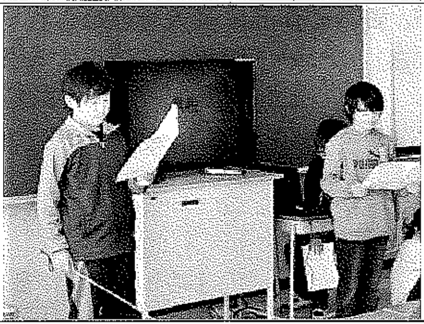
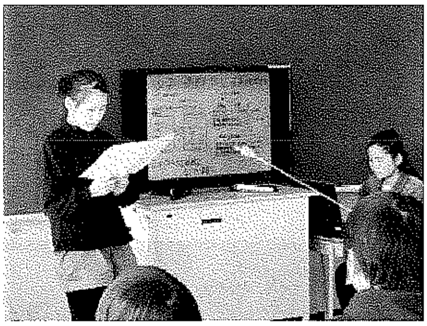
他グループの発表を聞くことで，今まで知らなかったことに気付くことができた。「外国ではソーダやポテトチップスにも税をかけるなんてびっくりした。」「税は本当に必要なものだと改めて分かった。」等の感想が聞かれ，税の必要性に気付き，税の意義（社会保障に使われている，健康増進のために使われている等）について，多くの児童が理解を深めることができた。



<税って何？>

税金が，住民の公共サービスに使われていること等を発表した。写真の児童は，警察や消防の働きや学校施設の補修に，税金が使われていることを発表している。

発表の中で，税金の使い道を決めているのは自治体の議会であること，その議員を選ぶのは国民による選挙であること，だから「投票に行く必要がある」という意見を述べた。

	＜税の歴史＞ 日本の歴史の中ではどんな税があり，どのような仕組みで集められたかを発表した。 租・庸・調のように教科書で出てきた税から，現代の税制である「源泉徴収制」や「申告納税制」まで，各時代の税について説明した。聞いている保護者からも，「そういう仕組みなのね」と，納得する声が聞かれた。
	＜消費税について＞ 日本における消費税と，外国における消費税（付加価値税）の比較が中心となった発表であった。 ８％という日本の消費税は，世界に比べると低い割合である。割合がもっと高い国では，その分社会保障が充実している。だから，消費税増税も生活のためには必要だという意見を述べた。改めて増税が迫っていることに驚く児童もいた。
	＜税の種類＞ たくさんの税を，国税・県税・市町村税の３つに区分し，それぞれの税について説明をした。 それぞれの県で独自の税制があること，トン税等のあまり知られていない税があることを発表した。また，入湯税等，消費税以外にも身近な税があることの説明ができた。税の種類は多くの児童が関心をもっており，「そんなのにも税がかかるのか」と驚く様子が見られた。
	＜税の未来＞ 納められた税がどのように使われるかということや，これからの税収等について発表した。 自分たちのためだけでなく，恵まれない国のために税金が使われていることを，初めて知った児童が多かった。 写真の児童は，少子高齢化等の社会の変化によって，税収が減っていくという問題について発表している。

発表会を終えての，児童のまとめについては，以下のようなものである。

・税金は，国や町のため，みんなの生活のためにちゃんと使われていることが分かった。
・少子高齢化の問題が，税収にも関係してくるということに驚いた。
・所費税率が低いのと，社会保障が充実しているのはどっちがいいか考えてしまった。
・税の種類の多さに驚いた。自分でももっと調べてみたい。
・自分は「税金」に対してあやふやでよく分かっていなかったけど，今は仕組みなどが理解できて，「税金」を身近に感じられるようになった。
・税金がなければ，日本中が大変なことになっていたかもしれない。絶対に必要だと思う。
・大人になると，税金を払う機会が増えることが分かった。しっかり納めたい。
・税金がないと本当に大変なんだと分かった。税金を忘れずに納めたい。
・税金は生活にも環境にも関係があるから，もっとみんなで協力して，税金を納めていきたい。
・最初は税金の使い道が分からなかったので不安だったけど，税金について勉強して，国や町やみんなのために使われていることが分かった。これで，安心して税金を納められる。

【その他】税に関する絵はがきコンクールへの応募

税に関して学習してきたことを生かし，冬休みの課題として作品を作成させ，「税に関する絵はがきコンクール」へ応募させた。税への関心を高めたり，学習したことを振り返らせたりするのに有効であった。

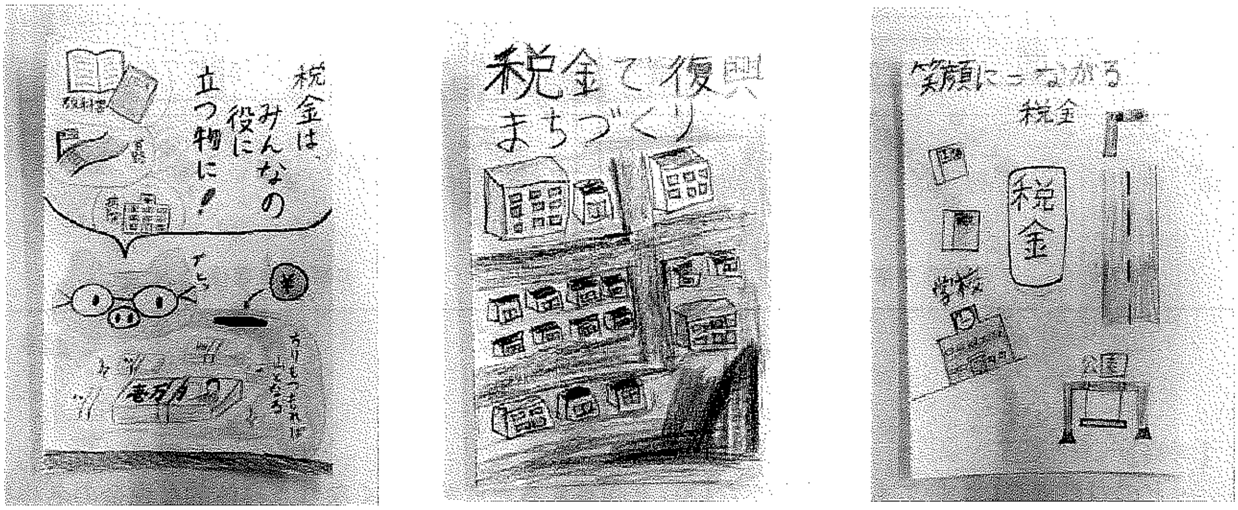


写真５　「税に関する絵はがきコンクール」への応募作品

(9)児童の変容（事後調査）（平成３０年２月　６年１組　男子１３名　女子６名　計１９名）

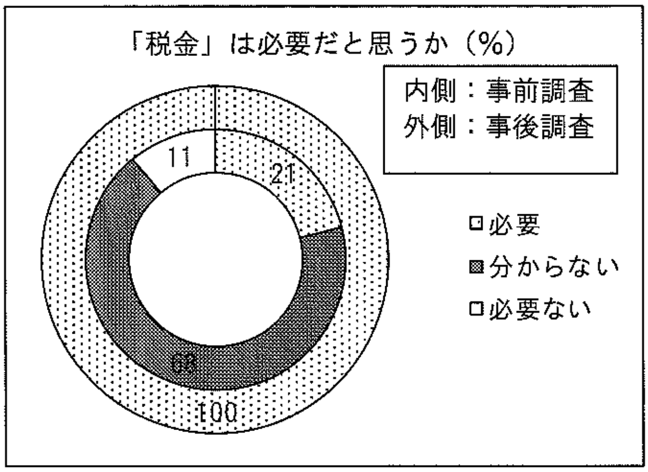


図６

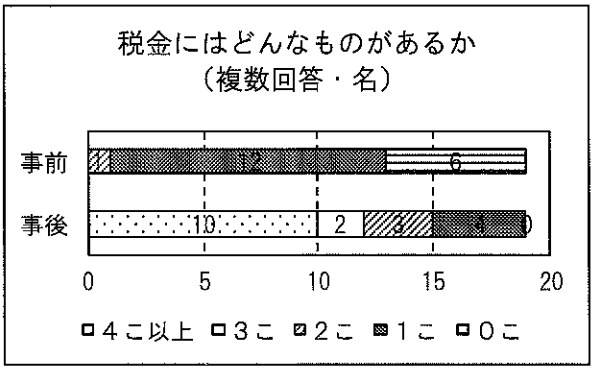


図７－１

児童から出された税金の例

事前調査		事後調査
・消費税 ・国に使うお金	➡	・消費税　・とん税 ・固定資産税　・酒税 ・たばこ税　・入湯税 ・自動車重量税 ・所得税　・県民税　等

図７－２

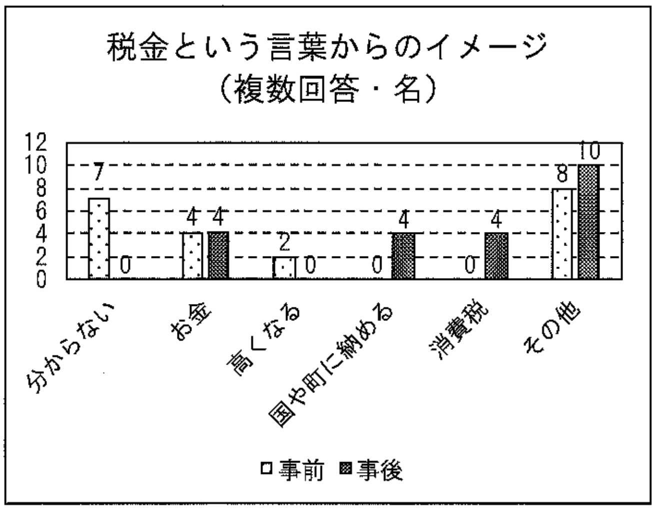


図８

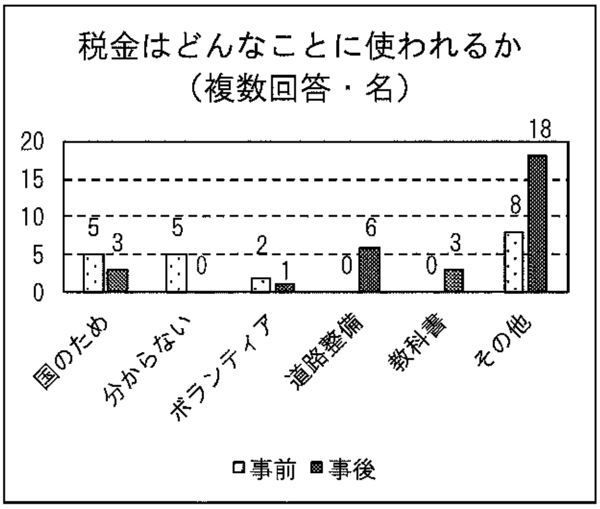


図９

【考察】

・どの質問項目においても，「分からない」と回答する児童がいなくなり，具体的な税金の名称を挙げたり，理由を挙げて回答できたりする児童がほとんどで，知識が身に付いたことが分かる。（図７・８・９）
・必要性に関しては，「必要」「どちらかといえば必要」と回答した児童は１００％であった。しかも，「みんなの幸せのために必要」や「より良い生活をしていくために必要」といった，明確な理由を挙げており，税金の大切さ，必要性が身に付いた。（図６）
・「税金にはどんなものがあるか」という質問への回答の内容を見ると，税金の種類が増えた。回答で見られたのは，「たばこ税」「酒税」「とん税」等であった。種類について調べたことが，情報として共有されている。（図７）
・税金の使われ方については，「道路整備」や「教科書」等，具体的な回答が見られた。それ以外にも，「医療費」等，自分たちにとって身近な使われ方の回答が見られた。（図９）

８　成果と課題

(1)　成果

・学習の前に税に対する実態調査を実施したことで，児童の税に対する知識や理解度を把握することができ，実態に応じた指導を考えることができた。また，事前・事後の調査を行うことで，比較し，変容を確かめることができた。
・租税教室で税についての知識を身に付けてから調べ学習を行ったため，課題が比較的適切に設定でき，調べ学習を進めることができた。また，最初に個人で調べ学習を行ったことで，グループ活動に入っても人任せではなく，主体的に活動することができた。
・グループ活動を取り入れたことで，個人では集められなかった情報も共有することができ，話し合いながら学びを深めることができた。
・保護者の前で発表をさせる場を設定したことで，自分が学んできたことを意欲的に伝えることができた。また税金や社会の仕組みについて，家庭で話題にするきっかけにつながった。
・事後の実態調査で「税金は必要だと思うか」の項目に，全員が「必要である」と回答した。調べ学習の中で，税金の必要性や重要性を理解することができた。
・児童の発表の中で，納税に限らず，選挙や少子化についての発表もあった。その後の公民分野では，選挙への参加意欲や，政治について考える意欲が高まった。
・事後調査において，税金について家庭で話題にしたという児童は２名であった。しかし，「事業」をしている自分の家でも，消費税を納めているか尋ねられた」等の話を話題にしたと，回答した児童以外の保護者からも聞いており，税に関して，関心をもたせることができたと考える。

(2) 課題

・租税教室に至るまでの普段の社会の授業の中でも，もっと税について注目させる手立てを講じるべきであった。事前の知識が多ければ，より深い学びにつながったと考えられる。

・主にインターネットを活用して調べ学習を行ったが，インターネット上の不確かな情報を取り入れる児童もいた。インターネット以外にも，活用できる図書資料等を充実させる必要があった。

・児童の課題に対して，適切なアドバイスができるよう，教師自身も，必要な知識を身に付けなければいけないと感じた。

・租税教室だけでなく，調べ学習等の中でも，税務署等の外部専門機関との連携を取るべきであった。